

## 第42回 記者懇談会実施概要

- 1 日 時 平成19年5月16日(水) 15時30分～
- 2 場 所 100周年記念会館 第2会議室
- 3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:30～16:30)

- ・原田輝彦政策創造学部教授

発表テーマ「ドイモイ(刷新)政策導入後のベトナムに於ける

資本・金融自由化政策概観」資料1

- ・山本恭史システム理工学部専任講師

発表テーマ「数値シミュレーションによる界面上濃度分布推定

—計測れない量を推測る—」資料2

(2) 学内状況説明・情報交換 (16:30～17:00)

- ① 「教えと学びのショーケース」の公開と「教えと学び連環室」の発足について 資料3
- ② 日本初の「カレッジリンク型シニア住宅」クラブ・アンクラージュフォーラムの開催について 資料4
- ③ 財団法人大学基準協会による相互評価ならびに認証評価結果について 資料5
- ④ 平成19年度私立大学学術研究高度化推進事業の選定について 資料6
- ⑤ 文学部&RYLA国際委員会連携公開講座「青少年の『からだ』の問題を考える  
～ロータリー青少年指導者養成プログラムの開発に向けて～」資料7
- ⑥ 経済学部・経済学研究科「国際理解」連続講演会の実施について 資料8
- ⑦ 1・2年生向けキャリアプランニングセミナー仕事研究シリーズ【特別企画】の開催について 資料9
- ⑧ 高槻キャンパス祭の実施について 資料10

4 大学側出席者

河田悌一学長、芝井敬司副学長、大津留智恵子学長補佐  
原田輝彦政策創造学部教授、山本恭史システム理工学部専任講師  
冬木正彦環境都市工学部教授  
藤本清高広報課長、鶴丸憲一広報課長補佐他

5 参考資料

- (1) 平成18年度(最終年度)関西大学現代GP成果報告書 冊子
- (2) 人権問題研究室 第49回公開講座『「結婚差別」ののりこえ方を考える』チラシ

以 上

# ドイモイ（刷新）政策導入後のベトナムに於ける 資本・金融自由化政策概観

政策創造学部 教授 原田輝彦

## 【概要】

1. 1975年4月、北ベトナムが南ベトナムを制圧した後、統一国民国家として出発したベトナムは、1986年12月開催の第6回ベトナム共産党大会に於いてドイモイ（刷新）政策導入を決議して、翌年から市場経済導入を具体的な仕方で開始した。
2. ベトナムは社会主義を政治理念としながらも、一方では市場経済化を加速しており、1994年2月米国禁輸政策解禁後、商品取引（＝貿易）と表裏一体を為す国際金融取引の自由化を指向してきた。その甲斐あって、2007年1月には念願であった WTO に加盟する等、その市場経済 System は、漸く世界標準に catch up を果たしてきた、と評せよう。
3. 日本企業は、安くて豊富な労働力を求めて、ベトナムに注目している。本記者懇談会では、同国民商事法立法動向を振り返りつつ、資本・金融自由化政策を概観し、今後の在ベトナム日系企業（日越合弁企業を含む）経営行動等について私見を述べる。

## 【プロフィール】

金融政策、公共政策を担当。1956年生。県立宮崎大宮高校卒業まで地元で育つ。1979年3月九州大学法学部卒業。同年4月、日本開発銀行（現・日本政策投資銀行）に入行。2007年3月末退職して、本学に赴任。在職中は、営業・審査・企画・回収・監査・調査・研究・庶務と業務万般を担当。このほか2回の出向経験あり。

バブル経済終焉前後に担当した債券格付業務（出向）では、間接金融から現在では普通の直接金融へ潮目が変わる直中に身を置く。また21世紀初年、大口融資先大手 Regional Supermarket 経営企画部門で現場を経験。銀行員時代の仲間と共に出向時の仲間も貴重な財産である。学生時代は、基礎法学ゼミにも所属。カトリック神学に裏打ちされた法理学・法思想史（水波朗・三島淑臣両教授）から教育研究職への熱い思いが養われた。現在、国際協力学（＝法整備支援論）が研究課題の一つ。趣味は、酒・カラオケと濫読。

# 数値シミュレーションによる界面上濃度分布推定

## — 計測れない量を推測する —

システム理工学部専任講師 山本恭史

### 【概要】

物質は、基本的に固相・液相・気相のどれかの状態で存在している。このうち 2 種類以上が混ざった流れを混相流という。気液混相流を考えてみると、気泡や液滴が含まれる工業装置は数多い。それらの開発や設計のために気液混相流を解析する際、大きな困難をもたらすのが、変形する界面である。流体の運動方程式は確立されており、基本的にはその方程式を解くことで、多くの流れ場を解析することが出来るようになってきたが、界面を含む混相流の場合、界面が時々刻々変形すれば、境界条件が時々刻々変化することになり、一筋縄ではいかなくなる。

具体的な条件が与えられた問題に対して、コンピュータで近似解を求め、その数値解を可視化する「数値シミュレーション」は解析解が得られない問題や実験が困難な問題の解析に威力を発揮する。流体力学の分野では、特に数値流体力学（CFD）という 1 分野として確立されてきている。移動変形する界面をどのように扱うかは、CFD のホットなトピックとなっている。

水道水は飲料用には十分きれいであるが、気泡や液滴にとっては十分きれいでなく、界面活性剤のような不純物が必ず含まれる。不純物が液滴の界面に吸着すると、界面は液滴の下降とともに後ろに流されるので、不純物濃度も後ろ側で上昇する。界面活性剤はその濃度に応じて界面張力を減少させるため、液滴後部で濃度が上がると前向きに引っ張る力が生じ、界面の移動にブレーキをかけ、液滴の下降速度を大きく減少させることになる。このメカニズムを再現する計算モデル・アルゴリズムを開発しコードを作成した。実験では気泡周りの流動を可視化することはできるが、界面上の不純物濃度を測ることは容易ではない。パラメーターをいろいろ変えてシミュレーションを行い、流動の可視化結果を再現する条件を見つければ、界面上の濃度分布を推測することが可能となる。

実験で測れるものを計測し、計測できないものをモデリングしたシミュレーションと比べるとことで、見えないものを見えるようにしようという研究を行っている。この研究により、例えば、さらに高解像度化するデジタルカメラにより撮影された写真の印刷に対応できるインクジェットプリンタの開発に寄与することなども期待できる。

### 【プロフィール】

1970 年和歌山県生まれ。関西大学システム理工学部専任講師。専門は、混相流の数値解析、画像計測法の開発。大阪大学工学部産業機械工学科卒業。大阪大学大学院工学研究科博士後期課程修了。工学博士。立命館大学理工学部土木工学科での研究員を経て、2000 年より関西大学工学部システムマネジメント工学科助手。2003 年より専任講師。2007 年より学部改組によりシステム理工学部機械工学科。学生時代より、数値シミュレーションにより混相流をコンピュータで再現し、そこに現れる物理に関する研究を行ってきた。1999 年からは画像を利用した計測システムの開発に携わり、現在は実現象とシミュレーションの融合を目指している。趣味は、お酒を少々。